

7 岩津ネギの優良系統育成進む

ねらいと成果

兵庫県では伝統野菜のブランド化を推進しているが、歴史が古い岩津ネギは、近年分けつの発生、品質のばらつき等品質低下がみられ、優良系統の育成が望まれている。岩津ネギの種子生産は、生産者が各自で自家採種しており、採種規模が小さいこと、母本選抜が不十分であること、隔離栽培が行われていないこと等の理由により系統間のばらつきが大きい。とくに産地が衰退した時期に優良系統が失われた可能性があり、ここ数年の産地拡大により、種子生産の重要性が課題となっている。そこで、牛角系（沿道売り、贈答用）と長葉系（袋詰めが容易な市場出荷用）の2タイプに目標を絞り、ひょうご安心ブランドにも適応するさび病に強い系統を育成するため、行政、地元JA、農業改良普及センター等関係機関と連携分担し、優良な数系統を選抜した。

内容

朝来市の生産者11名の栽培系統から目標とする形質をもった系統（牛角系131株、長葉系129株）を選抜収集し、県の伝統野菜等ふるさと野菜ブランド化事業で設置した現地採種ハウスで再選抜した（表1）。ネギは他殖性作物であり、小規模な選抜を繰り返すと近交弱勢により収量低下がみられるので、数系統の混合採種を目標にし、現地選抜系統に加え、北部農業技術センターの維持系統について生産力と特性検定を実施した（表2）。採種年での検定のため通常の作期より遅い7月下旬播種となったが1月にはほぼ商品としての判定が可能であった。現在、分けつ性は検定中であるが、牛角系は葉鞘径からみてA及びC、長葉系は葉長が長く、葉鞘径の太いD系統が有望と判断した。北部農技維持系統のF系統

は現地選抜系統とやや形態が異なるが葉長がやや短く、葉鞘径が太く、牛角系の草姿で有望であった。

今後の課題

今回選抜した系統群については、品質や耐病性を再度調査し、草勢が低下しないよう系統再混合法により、原種維持を図る。また、関係機関と協議の上、種子の生産、配布体制を確立する。

小林 保（農業技セ・園芸部）

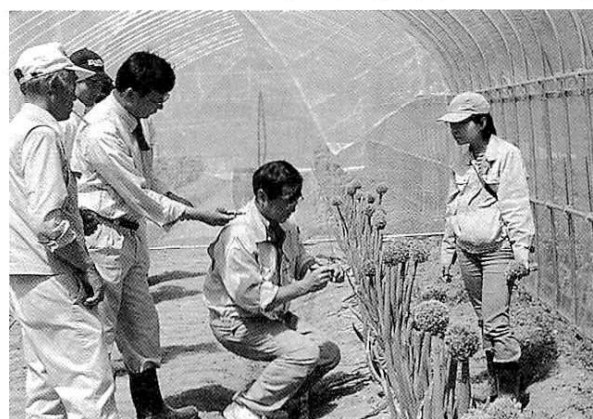


図 現地での選抜作業

表1 採種ハウス内での選抜状況

系統	選抜目標	選抜株数
A	牛角系、短茎	22
B	牛角系、長茎	60
C	AとBの中間	34

D	長葉系秀品	67
E	長葉系並品	13

表2 選抜系統の特性比較

系統	草丈 (cm)	葉長 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉鞘径(基部) (mm)	葉鞘径(中間) (mm)	葉重 (g)	葉色 (SPAD値)
A	70.7	52.1	18.0	20.0	20.7	98	64.8
B	72.0	51.8	18.3	19.7	20.2	93	65.5
C	70.8	50.7	17.1	20.5	20.8	95	65.2
D	76.1	57.2	17.9	22.2	22.4	111	64.0
E	71.8	52.3	17.3	19.3	19.3	85	65.2
F	67.6	51.4	16.7	22.1	21.7	96	64.9